

## アシタノイエ

平成 22 年度第 1 回目の見学会は、「アシタノイエ」。建築家・小泉雅生氏が自ら設計した自邸で、次世代の環境共生住宅として先進的な技術や工法を多く採用し、特にエネルギー消費を最小限まで抑える試みは日本建築学会から高く評価され、2007 年作品選奨の住宅部門で優秀賞を受賞しています。

個人の、すでに居住されている住宅を見学する機会は少ないことや、「新版・環境共生住宅 A-Z (2009 年発行)」に注目事例として紹介されていることもあり、会員の皆様からは、いつもより多くの参加希望をいただきました。各社 2 名の枠を設けさせていただいたため、参加できなかった方も多いと思いますので、このレポートで当日の様子をお伝えします。(開催日：2010 年 6 月 22 日、参加者 46 名)

### 高気密高断熱と大きな開口部「開放感を保ちながら、熱損失をどう抑えるか？」

窓面は住宅の中で一番熱が逃げやすい場所です。「アシタノイエ」では、開口部の断熱性能を極限まで上げることで、外と中の温熱環境に境を作りつつ、ガラスの持つ透過性を内部環境の快適性につなげることに成功しています。見学会当日は早めの夏日。たまたま換気をするために 1 階リビングの窓が開けられていたのですが、窓が開いている部分と窓ガラスがある部分の床を触ってみると温度がハッキリと違って、ガラス面の断熱性能の高さを体感することができました。

### 「1 室空間」という間取りがもたらすもの

車椅子で生活をされていたというお義母様が暮らしやすいように、1 階は簡易キッチンとトイレの島を中心に、360 度障害なく移動することができます。見学会では実際に、参加者がグルグルと写真を撮りながら 1 階を何周もしていました。部屋は引き戸の開閉で、仕切ることのできる可変性の高い造り。家族のライフスタイルに合わせて、すまい



の形が変えられることは、1 軒の家を長く住み継いでいく中で重要な要素です。また 1 階部分の居室の壁は高さ 190 cm で抑えられ、欄間部分は柱のみの構成になっています。2 階にあるキッチンの床も 1 階から見えていますし、階段室の向こう側にも外の緑が見えています。壁で視線を止めずに、遠く、例えば外部まで通すことが、人が室内で感じる「広さ」をより広げる有効なテクニックであることを身をもって体験しました。

### 明日、こんな家をもっと増えていくといい

少し前であれば先進的な環境技術を取り入れた家という、デザインよりも機能が優先されることが多く、居住空間としてはどうかとを感じるものも多かったように思います。またデザインが優先した住宅では、温熱環境への工夫が足りず、住み手にストレスを与えてしまう例も多く見受けられます。

「アシタノイエ」では、最先端の環境技術（パッシブ系の取り組みではありますが、さらに積極的な取り組みを採用するなど）を取り入れながら、住宅建築としての意匠性も高く、こんな環境共生住宅が増えていくといいな、と感じました。

住まい手でもある設計者の小泉氏とご家族が環境性能を上げることだけでなく、「どんな風に暮らしたいか」など、家族一人一人の特性や家に望むこと、また家族という集団になった時の空間の在りようについて、多くの話し合いを経てきたすまいの形には、学ぶべきことが多くあり、大変有意義な見学会となりました。

### ■ 環境共生住宅的技術要素

1. 省エネルギー：真空ペアガラス、気密木製サッシ、高性能フェノールフォーム断熱材の採用による高気密・高断熱化の実現
2. 省資源：雨水貯留による中水利用、再生人工木材の採用（屋上デッキ）
3. 地域親和：既存地形に沿った建築計画、既存樹木の保存、活用
4. 安全・安心：車椅子利用者にも使いやすい 1 室空間設計 他多数

### ■ 基本データ

用途：専用住宅  
 竣工年：2004 年  
 設計者：小泉アトリエ+メジロスタジオ  
 施工者：株式会社アイガー産業  
 構造・規模：木造 地上 2 階  
 所在地：神奈川県横浜市  
 敷地面積：281.00m<sup>2</sup>  
 延床面積：142.39m<sup>2</sup>

